

春の息吹を感じることができるようになりました。今日も、当院 HP を訪れていただきありがとうございます。バス待ちで見上げるハゼの木も概ね実は落ちて、幹から若葉の萌えだしが始まりました。隣のお寿司屋さんの排液をつつくセキレイも、鳴き声と動きが活発になりました。

この春は、冬からの解放と同時に、長かったコロナ禍からの脱却が期待できそうで、より暖かさや明るさに満ちた感覚を持ちます。熊本県の状況を振り返ると、第 7 波と 8 波の間（昨年 10 月頃）はかなり減少しましたが、それでも週最低の月曜日でも 100 人以上、ピークの火曜日では 600-700 人でした。現在は、月曜日は 100 以下となり、ピークでも 300 人台と明らかな減少がみられ、熊本県での猛威が始まった昨年 1 月以降で最も感染状態が良くなりました。昔、スペイン風邪消滅まで 3 年だった、と言われますが、COVID-19 もようやく終焉になればいいなと思っています。しかし、未だ陽性入院者はゼロにはなっていません。5 月からは 5 類移行が決まり、呼び方もコロナ 2019、と車の愛称みたいになるそうです。病院内でのマスクは国も推奨の方針ですし、労災病院でも「着用をお願い」を継続しようと思っています。ただし、最近ようやく、ご家族から患者さんに直接荷物の授受ができるようになりました。病棟毎に週 2 回の曜日を決め、1 回にご家族一人まで、滞在 10 分以内、という制約付きですが、それでも直接会っていただく意義は大きいと思っています。私の母は今月で 99 歳になり新潟の施設入所中ですが、先日行った姉によると、居室まで入ったの面会がやっと可能になったそうです。電話の声では測りがたい見た目の雰囲気から、年相応の体の衰えが見て取れたとも言っていました。時期を違わぬよう、近いうちに私も会いに行き、ひ孫の顔も見せてあげたいものだと思います。当院にも長期入院の高齢者が多数おられますが、そんな願いを持つご家族も多いと思います。

ところで、命に関するニュースで最近気になることが 3 つありました。

一つは昨年の出生数が 80 万人以下と史上最低になったこと、二つ目は、昨年の小中高生の自殺が 512 人と過去最悪になったこと、そして三つ目は、自分も深く関与してきた移植の問題で、違法な海外渡航移植斡旋に関する逮捕者が出て、初めて総理自身が衆議院予算委委員会でこの移植の暗部についての見解答弁を行うという事態になったこと、です。暗いニュースばかりですが、その底流には、日本が全体として貧しくなり、格差が広がり、コミュニケーションが乏しくなってみんな仲良く、という考え方が薄れてきた、そんなことの結果のような気がします。私の生まれた 1953 年の出生数は、戦後のベビーブームによる 200 万人台がやや減少に転じた 180 万人程度でした。今やその半分以下です。子供の自殺の理由は不明な場合も多いようですが、社会環境要因は否定できないと思います。移植の問題は古くて新しい問題で、2008 年に出されたイスタンブール宣言という、「自国民の移植は自国民のドナーによって行おう」という世界的コンセンサスが、なお日本では浸透しないことによる臓器提供の少なさが、悪意ある人につけ込まれた、ということかと思っています。人々の提供意識

は、行政や多くの人々の努力もあり、国内でも、また熊本でも、前向きにゆっくり変革の途上にあります。今後も、医療者や学校での教育も通じてさらに意識改革を促し、ゆっくりでも、このような不幸な出来事が減るように、関わってきた私自身ももう少し努力したいと思います。それにしても、この暗い世相、国情を、心機一転光り輝くものにする方法はないのでしょうか。あの忌々しい戦争を早く終わらせることもひとつと思いますが。私たちは、せめて健康の維持回復を精一杯支えて患者様やご家族の笑顔を増やす、それを徹底したいと思います。

南側駐車場に、3階建ての、手術室やリハビリを含む建物が3年後を目処に建つことが決まりました。さっそく設計に入ります。できるだけ早期に、模型でも近未来図を描いてみなさんにお示しするようにしたいと思います。

3月は異動の月です。在職期間はいろいろですが、お世話になった先生や職員が去ります。8名の研修医たちも、それぞれ新たな専門医療の道を目指して飛び立ちます。そして4月にはまた新たな多くの新任者を迎えます。ですから、熊本労災病院は永久に不滅です。救急であれ、一般診療であれ、いつでもなんでも対応します。職員みんな、今日より明日はもっと進歩しよう、という意気込みにあふれています。これからも当院をどうぞよろしく願います。